

会社説明会資料

2011年2月28日



三光産業株式会社
SANKO SANGYO CO.,LTD.

(証券コード:7922)

目次



- 会社概要 3～13
 - 4. プロフィール
 - 5. 当社の売上構成
 - 当社の製品紹介
 - 6. ①AV機器関連製品(DVDレコーダー)
 - 7. ②AV機器関連製品(デジカメ)
 - 8. ③OA機器関連製品(携帯電話)
 - 9. ④電池シール・広告関係
 - 10. 生産拠点
 - 11. 当社の強み
 - 12. 業績推移
 - 13. 業種別売上高の推移
- 2011年3月期 第3四半期決算報告 14～17
 - 15. 第3四半期決算概要
 - 16. 1～3Qトピックスと通期計画について
 - 17. 四半期業績推移
 - 18. 四半期貸借対照表
- 今後の展開 19～27
 - 20. 事業環境と重点施策
 - 21. タッチパネル関連ビジネス進捗状況
 - 22. アクリル樹脂・ガラス加工品事業
 - 23. 新市場の開拓
 - 24. 中国・光華産業の状況
 - 25. 中国及び海外展開の今後の施策
 - 26. 中期数値目標
 - 27. 株主還元について

会社概要

プロフィール



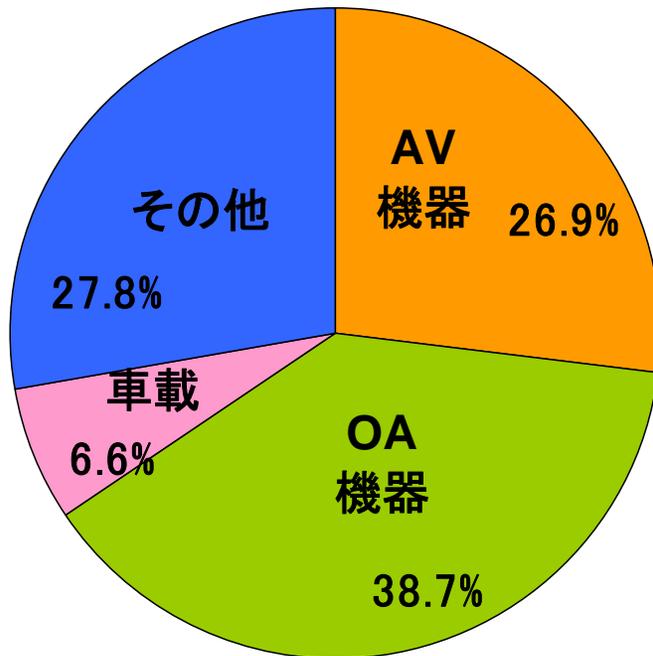
- 商号 三光産業株式会社
- 本社 東京都渋谷区神宮前3-42-6
- 代表者 代表取締役社長執行役員 山原 剛之
- 設立 1960年4月1日
- 事業内容 接着剤付ラベル・ステッカーの製造販売
- 資本金 18億5,075万円(2010年12月末)
- 関係会社 三光プリンティング株式会社
サンコウサンギョウ(マレーシア)
光華産業有限公司(香港)
燦光電子(深圳、光華産業の子会社)
- 従業員数 237名(単体)、802名(連結)(2010年9月末)

当社の売上構成

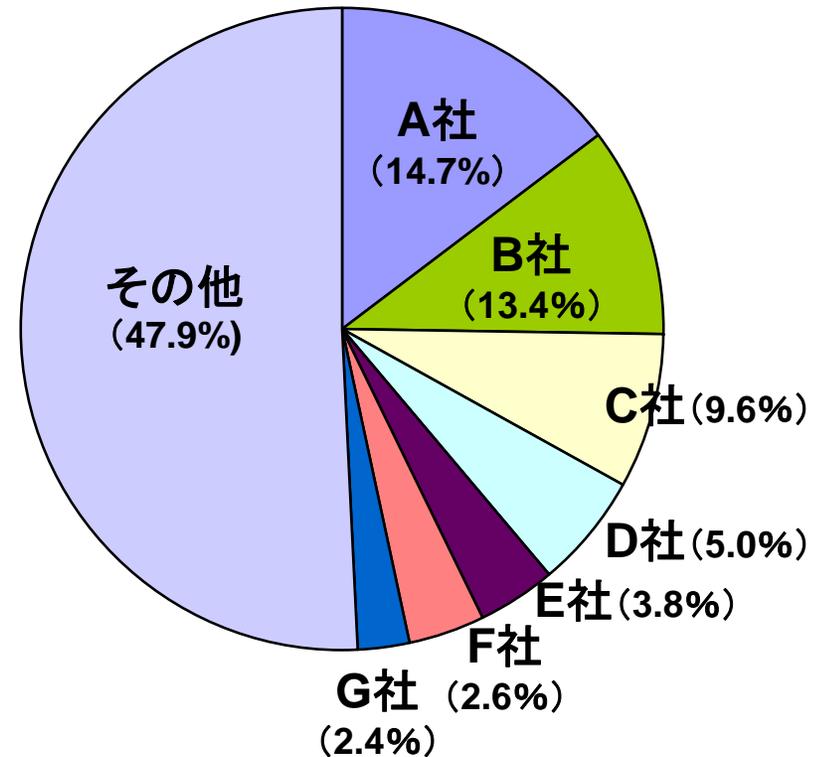


2010年3月期

業種別売上構成(連結)



顧客別売上構成(単独)



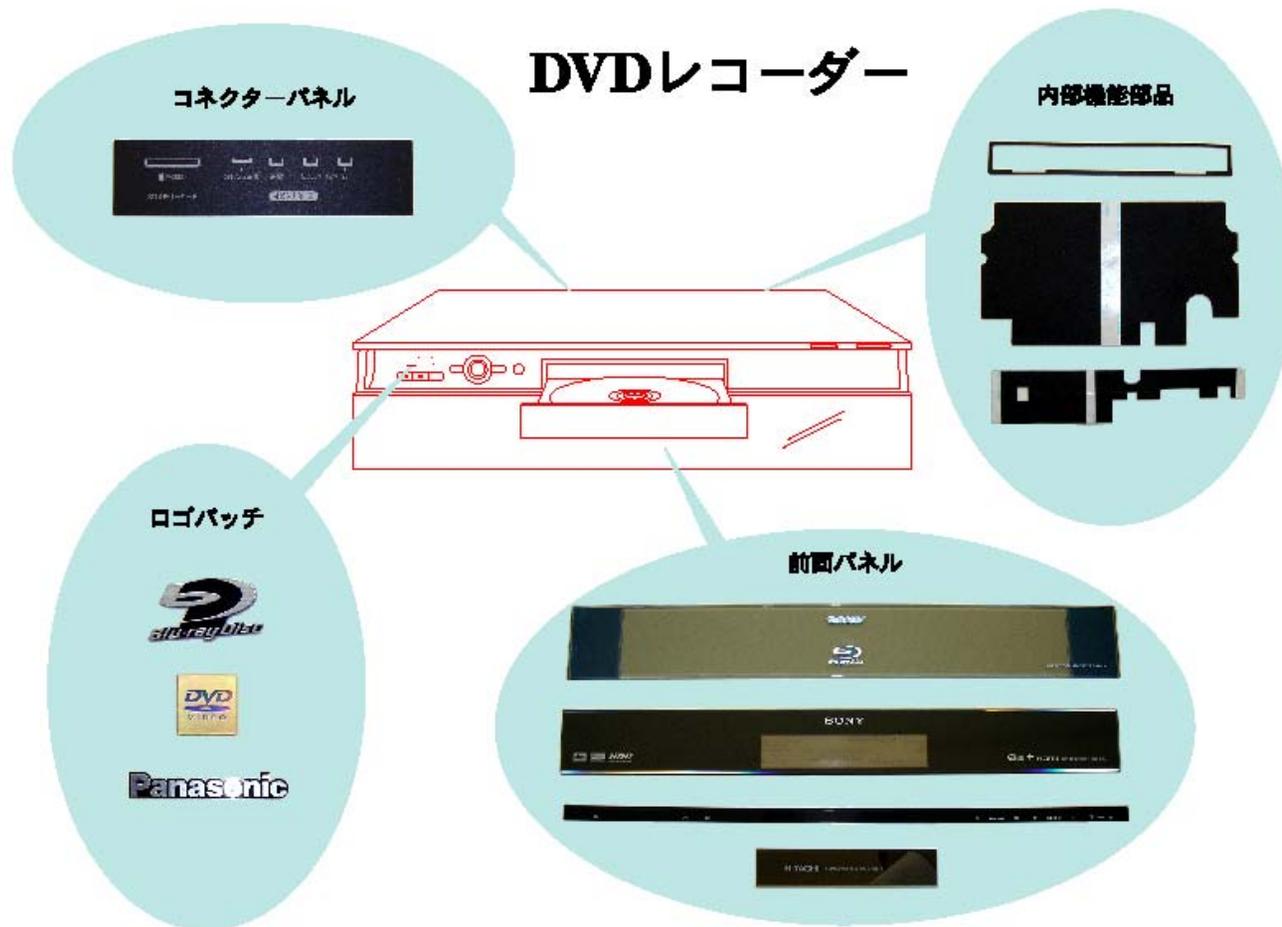
NEC TDK アルプス電気 ソニー 大日本印刷 パナソニック
日立製作所 富士ゼロックス 富士フィルム 三菱電機等
約1000社(敬称略) (五十音順)

当社の製品の紹介①



AV機器製品

DVDレコーダー向け部品

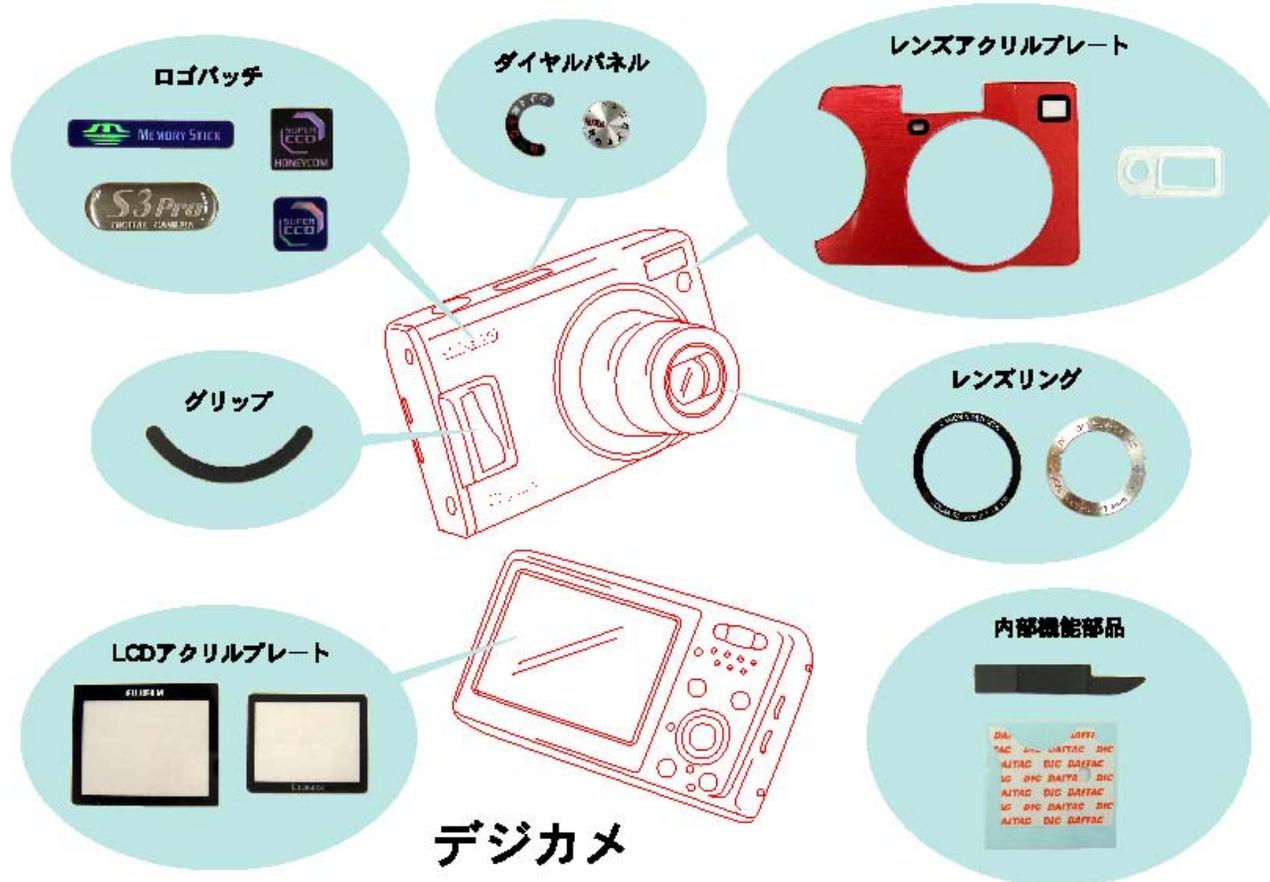


当社の製品の紹介②



デジタルカメラ向け部品

AV機器製品



当社の製品の紹介③



携帯電話機向け部品

OA機器製品

携帯電話

カメラマド/フラッシュパネル



バッテリー定格ラベル



電磁波シールド



ロゴパッチ



サブLCDマド



注意ラベル



定格ラベル/水没ラベル

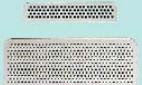


携帯電話

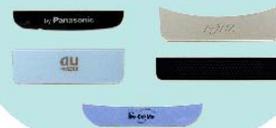
LCDアクリルパネル



スピーカーパネル



ロゴシート



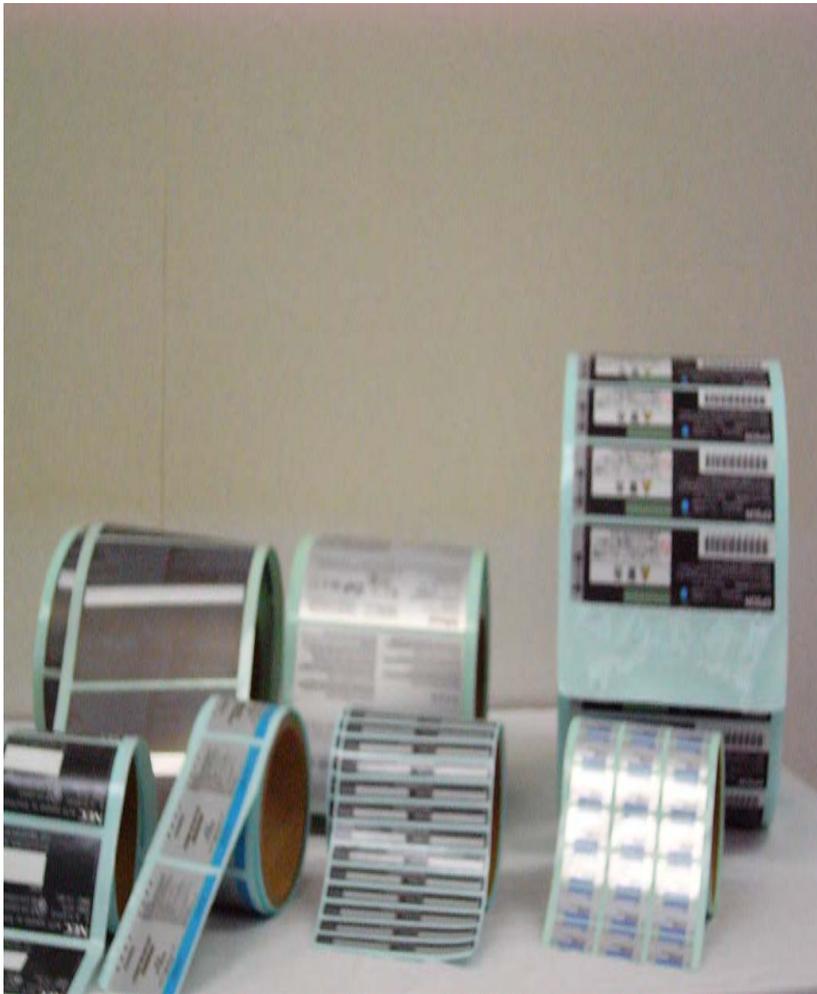
モック用表示ラベル



当社の製品の紹介④



電池シール・広告関連(その他)



生産拠点



2010年3月期 単位:百万円

	印刷方式	建物面積	生産実績
方南工場	シール主体	1,211 m ²	290
千曲川工場	輪転機主体	2,406	339
川越工場	オフセット主体	4,578	735
大阪工場	シール・シルク主体	(948)	647
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	2,986	434
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	2,200	1,001
三光 プリンティング	シール主体	611	244

()は賃借物件

当社の強み



1. 大手電機メーカーグループとの取引が中心
2. 顧客の様々な要望に対応しうる体制
 - ①. 幅広い印刷方式・加工技術を装備
 - ②. 外注を使うコーディネーション力
 - ③. 積極的な中国展開

約4万種類の製品

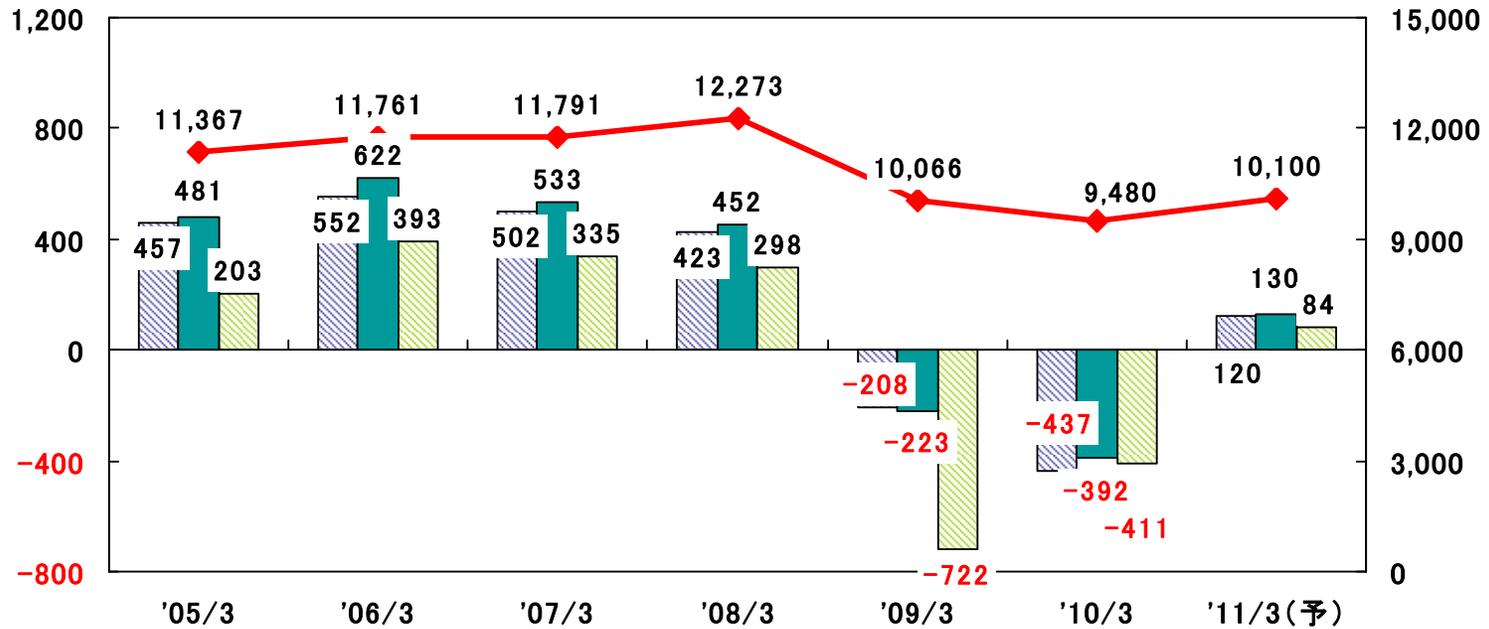
1,000を超える取引社数

業績推移



- 前10/3期は、リーマンショック後の厳しい経営環境下で、顧客の現地生産シフトへの対応、コストダウンを進める。スマートフォン及びデジカメ向けタッチパネルビジネスの立ち上がりの新規売上寄与等で、1Qから4Qへ徐々に回復に向かったものの赤字幅拡大
- 今11/3期は、タッチパネルの通年寄与や、自動車などを中心に需要回復傾向にあることなどから、3期ぶりの増収を見込み、同じく3期ぶりの黒字転換を計画

業績推移(百万円)



営業利益(左軸)

 経常利益(左軸)

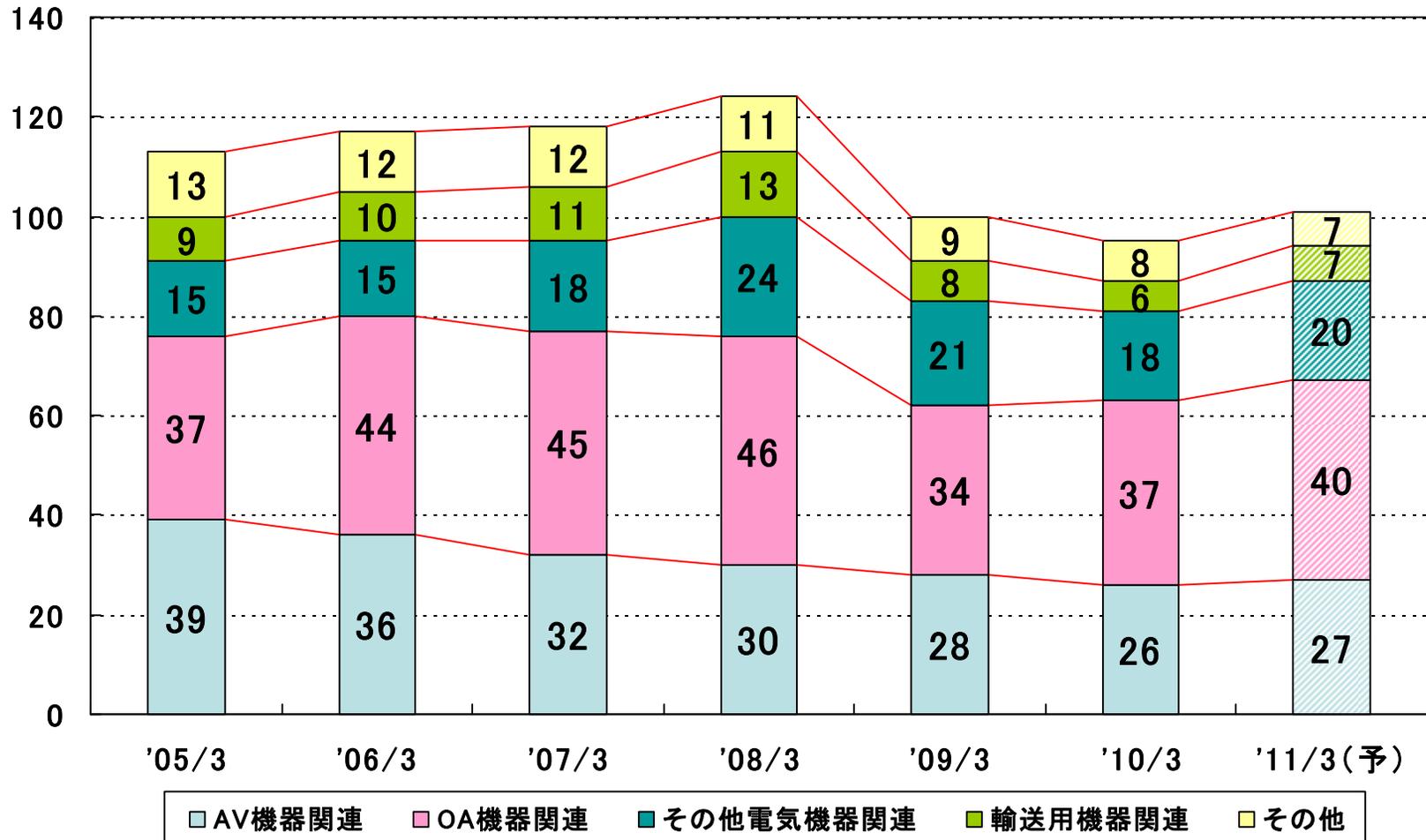
 当期利益(左軸)

 売上高(右軸)

業種別売上高の推移



単位: 億円



2011年3月期
第3四半期決算報告

第3四半期決算概要



単位:百万円, %

	10/3期 1~3Q累計		11/3期 1~3Q累計			11/3期 通期計画		
	金額	構成比	金額	伸長率	構成比	金額	伸長率	構成比
売上高	6,986	100.0	7,440	6.5	100.0	10,100	6.5	100.0
AV機器	(1,847)	(26.4)	(1,794)	(▲2.9)	(24.1)	(2,700)	(3.8)	(26.7)
OA機器	(2,739)	(39.2)	(3,011)	(9.9)	(40.5)	(4,000)	(8.1)	(39.6)
その他電子機器関連	(1,409)	(20.2)	(1,607)	(14.0)	(21.6)	(2,000)	(11.1)	(19.8)
その他	(988)	(14.2)	(1,023)	(3.5)	(13.8)	(1,400)	(0.0)	(13.9)
売上総利益	1,216	17.4	1,322	8.7	17.8	1,850	18.4	18.3
営業利益	▲113	▲1.6	20	—	0.3	120	—	1.2
経常利益	▲98	▲1.4	6	—	0.1	130	—	1.3
(当期)純利益	▲105	▲4.0	▲86	—	▲1.2	84	—	0.8

1～3Qトピックスと通期計画について



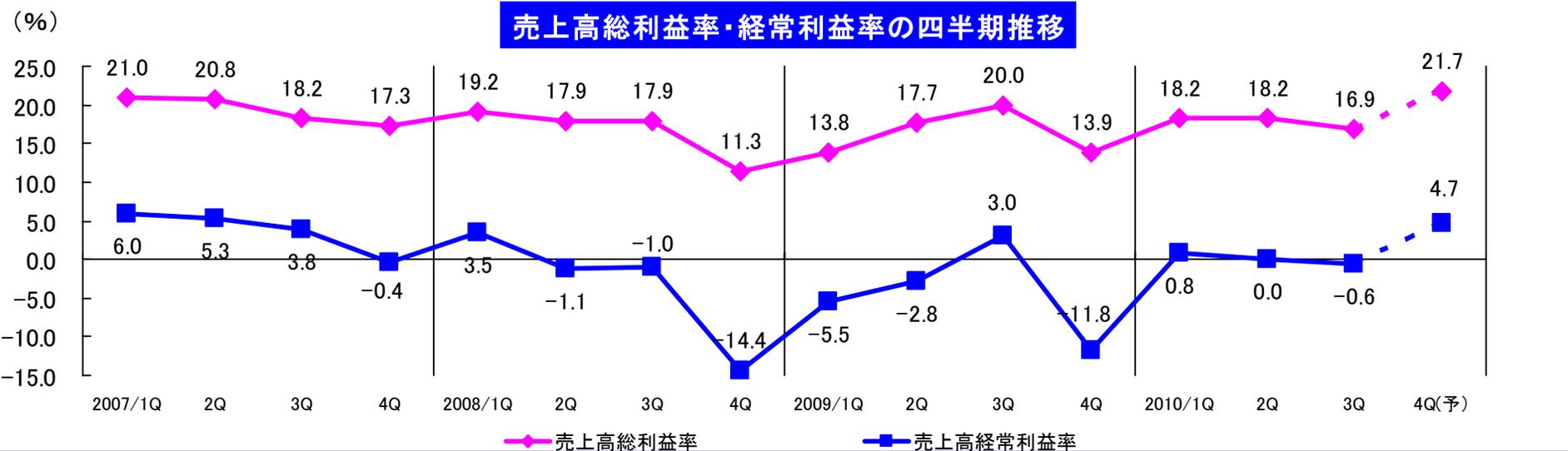
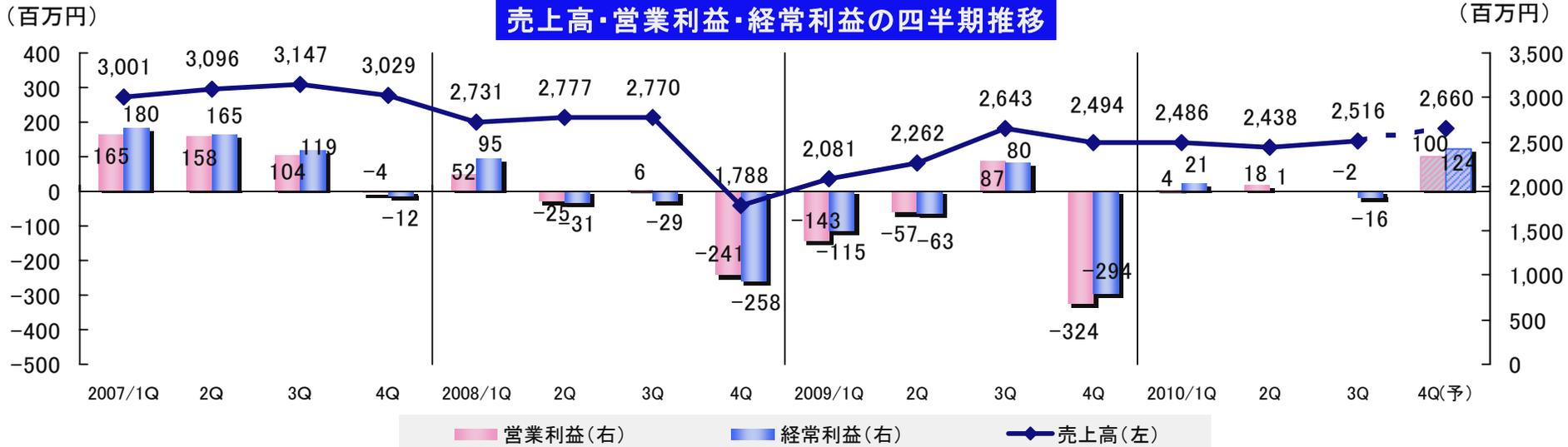
1～3Q決算のポイント

1. リーマンショック後のメーカーの大幅減産の影響を受けた前期と比較すると、需要は緩やかに回復に向かっている。前期4Qより本格生産を開始したタッチパネル関連製品は、当初見込みを下回るものの、3Q時点では約2.5億円の増収要因
2. 利益面では、引き続き顧客からの価格協力要請が厳しく受注単価の下落が続いているものの、操業度の改善とコストダウン効果で、原価率は0.4ポイント改善。販管費も前期並みに抑えたため、営業・経常段階でわずかではあるが黒字転換を果たした
3. 投資有価証券評価損94百万円を計上。引き続き最終赤字となった

通期計画について

1. 1～3Q時点で、想定をやや下回る進捗状況だが、通期計画に関しては期初公表値を変更せず、最終的な達成に向けてチャレンジする
2. タッチパネル関連製品に関しては、期待した受注水準を下回って推移。早期の巻き返しを図る ⇒ 後述

四半期業績推移



四半期貸借対照表



	10/3 第3四半期末	10/3 期末	11/3 第3四半期末
流動資産	(7, 287)	(7, 425)	(7, 434)
現金及び預金	2, 384	2, 794	2, 971
売上債権	3, 630	3, 343	3, 168
棚卸資産	1, 054	1, 094	1, 011
その他流動資産	218	192	283
固定資産	(4, 899)	(4, 907)	(4, 412)
資産合計	(12, 186)	(12, 332)	(11, 847)
流動負債	(2, 474)	(2, 563)	(2, 237)
買入債務	2, 112	1, 960	1, 785
その他流動負債	362	603	452
固定負債	(314)	(606)	(607)
退職給付引当金	183	474	468
その他固定負債	131	132	139
負債合計	(2, 788)	(3, 169)	(2, 844)
株主資本	(9, 604)	(9, 297)	(9, 148)
評価・換算差額等	(▲439)	(▲378)	(▲388)
少数株主持分	233	243	242
純資産合計	9, 398	9, 162	9, 002
負債純資産合計	12, 186	12, 332	(11, 847)

単位:百万円

今後の展開

事業環境と重点施策



顧客動向と当社の対応

長期トレンド

- ① 製品ライフサイクルの短期化
- ② 高級機種・高付加価値品も部材の海外現地調達シフト(デジカメ・カーナビ・薄型TV…)



- 中国の生産能力増強と営業拠点の拡大。さらに、同国内でのコスト上昇、カントリーリスクを踏まえ、新たな生産拠点整備の必要性を認識(東南アジア中心に模索)
- 国内においては、コストダウンとともに、外注先を弾力的に活用し、製品の短サイクル化に対応。国内市場縮小に対応し、生産体制の見直しは継続

最近の動き

- ① 受注量は回復傾向ながら単価下落傾向に歯止めがかからず
- ② スマートフォンの普及や各種デジタル機器でのタッチパネル普及が進み、関連製品が当面は収益の柱として期待



- コストダウン活動の継続
- 需要が拡大するタッチパネルをはじめとするアクリル、ガラス加工品の生産体制・営業体制の整備
- 医療分野等、新市場の開拓による収益源の多様化

タッチパネル関連ビジネス進捗状況



タッチパネル外装部品は、現状、受注は当初期待に届かず

⇒(要因)

- ①当社ユーザーが採用する抵抗膜式タッチパネルが劣勢で、静電容量式が主流になりつつあり、受注が見込みを下回る

⇒(今後の展望)

- ①携帯電話は、新型グローバル携帯のタッチパネル向け製品を7月より量産化(月1億円弱の受注見込み)
- ②アクリル樹脂及びガラス加工技術を確立し、静電容量式タッチパネル部品に対応。来期は、次世代小型ゲーム機や国内メーカーが発売するタブレットPCに採用が決まるなど、新たな市場への展開が加速
- ③タッチパネル以外にも、カーナビ、デジタルカメラ用ガラス窓(下期より受注拡大)などに期待

⇒(課題)

- ①営業手法・ルートの再構築。主力タッチパネルメーカーを通じたエンドユーザーへのセールスを強化
- ②中国における外注を含めた生産能力が限界に近づいており、受注機会ロスの要因にもなっている。協力工場の確保が急務

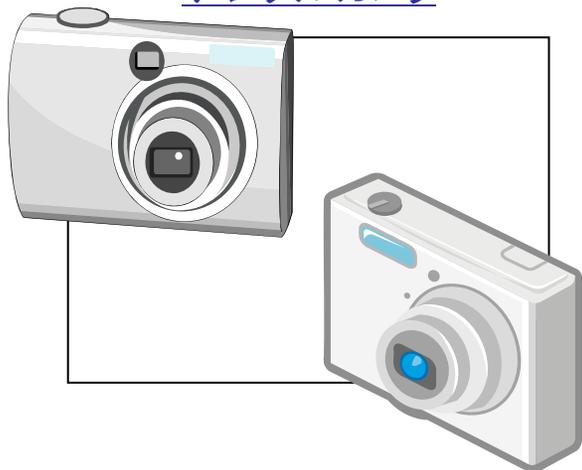
⇒樹脂・ガラス加工品も含め、上記課題を解決することで、来期以降の業績貢献に期待

アクリル樹脂・ガラス加工品事業

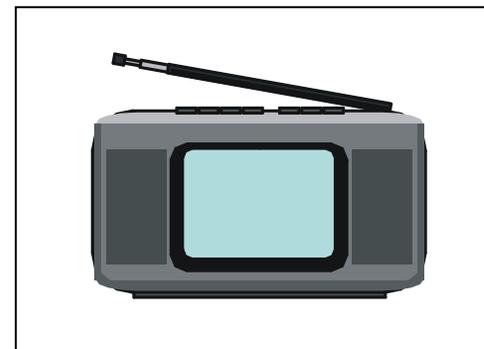


今後期待される分野

デジタルカメラ



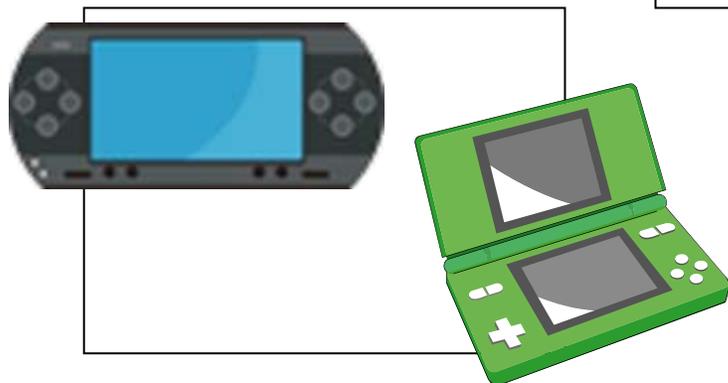
カーナビ



携帯電話・スマートフォン



ゲーム機



タブレットPC



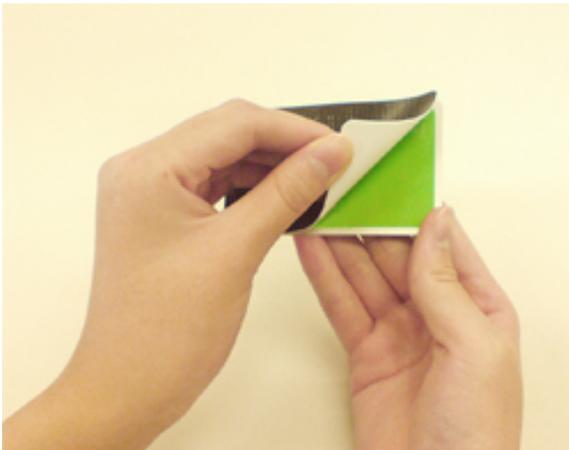


医療向けに一定の成果

- 医療機器向けのシール、ラベルの営業に成果。医療機器メーカー・専門商社数社から継続案件として受注を獲得
- 検査用(試験管貼付用)ラベルについては、既存納入先からの切り替えに至らず、引き続き実績づくりの段階

非接触ICカード用「きせかえシート」が好調

- アミューズメント・玩具景品等オリジナル商品強化のひとつとして取り組む、非接触ICカード「きせかえシート」がバラエティグッズとして好調

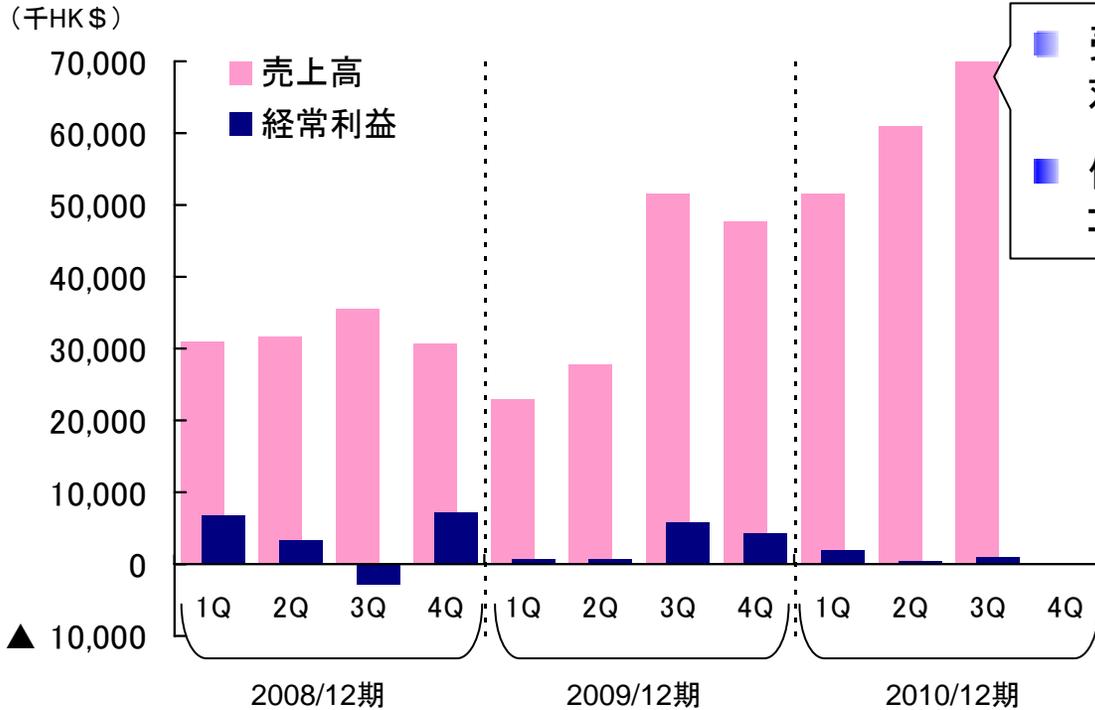


某イベントでの
きせかえシート
の販売場面

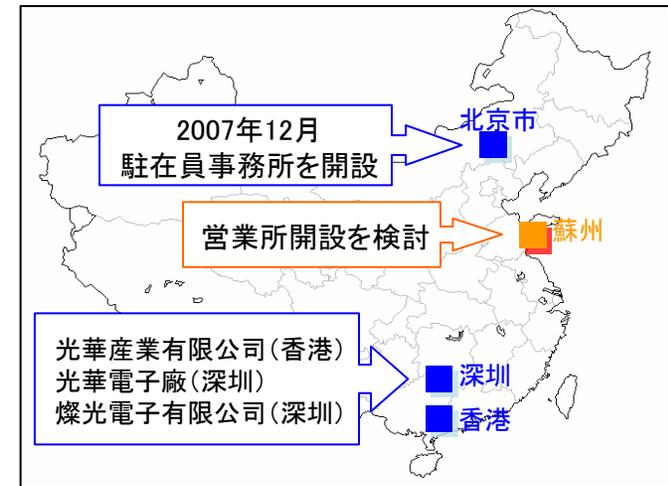
中国・光華産業の状況



光華産業 四半期売上高・経常利益の推移



- 売上高の高成長続く。一層の需要増に対応した生産能力の確保が課題
- 価格引下げ要求がシビアなうえ、大幅なコストアップにより、収支改善に遅れ

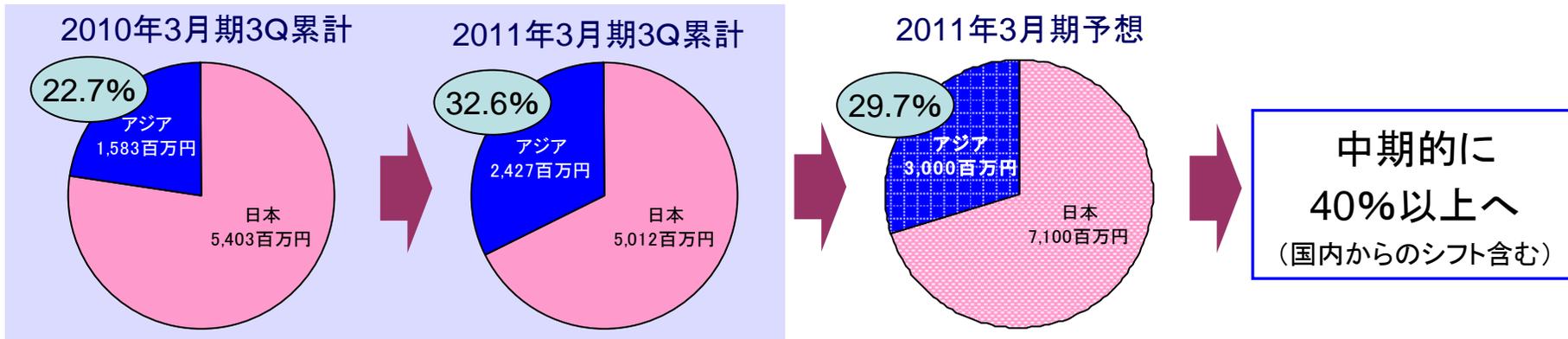


中国及び海外展開の今後の施策



現状

- 従来の家電メーカー向けのシール・ラベルに加え、前期より、携帯電話向けのアクリル窓の生産をスタート。中国及びアジアでの売上高は倍増を狙う



今後の展開・課題

- 蘇州での営業拠点開設は、引き続き検討課題
- 人件費をはじめとするコストアップを理由に、新たな生産拠点を模索する動きも出ている。さらに光華産業自体のコストアップが顕著。中国・マレーシアに続く、東南アジア域内での生産拠点設置を視野に入れて、市場調査を実施
- 営業面では、国内営業部門との連携を強化

中期数値目標



売上高 年率3%成長の持続！

営業利益率 5%以上の早期達成！

株主還元・資本政策について



■ 配当について

08/3期実績 13円（13円の安定配当を継続）

09/3期実績 7円（最終損失にともない減配）

10/3期実績 10円（当初予定 普通配13円 ⇒ 普通配7円、50周年記念配3円）

11/3期計画 7円（現在の収益状況等を考慮し前期普通配7円の継続を予定）

→ 収益力の強化に努め、08/3期まで実施していた13円配当の早期復活を目指します

■ 2008年12月25日に267,000株、2009年3月18日に840,000株、12月18日に60,000株の自己株式を取得

→ 当面は金庫株として保有し、今後、事業展開に応じて、企業価値の向上を実現するために機動的に活用いたします

本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

IRお問合せ

執行役員経理部長

高橋 光弘

TEL: 03-3403-8134

E-mail: m-takahashi@sankosangyo.co.jp